

広島県鉄構工業会

ベトナムで人材育成

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳）とベトナムの同業協会（会長＝阮文強）は、共同事業の一環として、外国人技能実習生受入事業などを行う「アジアヒューマンライズ共同組合」を通じて、ベトナムで人材育成を行っている。ファブリー

ケーターの人手不足が続く中で、実習生に日本語や溶接技術を教え、鉄骨製作作業に早く慣れてもらうのが狙い。

鉄骨ファブでは外国人実習生が就業しており、今後の受け入れを

検討している経営者もいる。ファブの現場は繁忙で従業員に負担もかかるため、語学や溶接を教える時間を十分に取ることが難しく、制度を活用したいがで

きないケースがある。実習生は工場でコミュニ



トレーニングセンター外観

ニケーションが取れなかったり、技術が足りなかったりする事があった。実習生への事

前教育へのニーズが高まっていたため、アジアヒューマンライズ協同組合が取り組みを開始した。

実習生は専門学校で1年6カ月ほど日

が可能なN4レベルの到達を目指す。その後2カ月をかけたトレーニングセンターで溶接技術を習得、残りの4カ月は日系ファブの現地工場に鉄骨製作を行う。事前に教育を受けることで、高いレベルの即戦力人材となる。職場でのコミュニケーションを円滑に行い、技術を身に付けているので仕事に入りやすくなる。すでに県内ファブで就業しているケースもあり、労働条件や教育などのサポートやフォローを受けている。

2019年4月2日付
日刊産業新聞

今後は図面の書き方など教える技能種類を増やすことでさまざまなニーズに応え、鉄骨業界の人手不足に対応する。